

環境があるにもかかわらずその使用は伸びず、産後の避妊法は相変わらずコンドームが主流である。性規範の変化から婚外パートナーの割合が1割を超えるという報告もある。コンドーム使用者の避妊の失敗が多いことを考えると、コンドームによる性感染症予防も適切に行われているとはいえ、結婚しているカップル間でも性感染症予防を真剣に考慮すべき時代である。

岡永 3)は「この子どもで最後と考えている女性」を対象とした研究を行い、《授かれば産むと思う》《条件次第でもう一人欲しい》という『妊娠に対する気持ちのゆらぎ』があり、「この子どもで最後と考えている女性」であっても不確実な避妊法しか実践していないことを報告した。女性たちのなかに曖昧な避妊意識と性感染症罹患の可能性の不認知が広まりつつあると思う。妊娠したいときにより健康に妊娠するために性と生殖の健康を守るためには、確実な避妊、性感染症罹患の予防、性感染症罹患や結果として起こる子宮頸がんの早期発見・治療が不可欠で、その実践へは単なる知識の提供ではなく、女性たちへの意識改革・意思決定支援が重要である。

しかし、産後の避妊・性感染症予防支援は、相変わらず産後入院中の集団での家族計画指導が主流である。産後の女性の身近にいる助産師は、先に述べたような現状を認識し、避妊・性感染症予防のみならず、女性自身の性と生殖の健康に注目し、確実な支援を実践すべきである。

ここに、我々が育成を目指す避妊・性感染症予防カウンセラーの活躍する余地がある。しかも、最近設置が進む助産外来を含む助産師主導の外来運営では、産後の1ヶ月健診においても、健診と健康教育を含む介入が実践可能であり、カウンセラーの実践の場として適している。

欧米では避妊や性感染症予防の働きかけは、*contraceptive counseling* の名称が用いられ、多様な職種により、カウンセリングを用いた専門的な介入が行われ、その効果を検証する研究が盛んに行われている(4-5)。しかし、日本においては産後の家族計画指導に象徴されるように、いまだ指導の様相が強い。我々が先行研究において開発した避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムでは、保健情報の提供・専門的技術の提供・情緒的サポート・意思決定の支援というCoxのモデルの4つの保健行動相互作用を用いて、対象者の避妊・性感染症予防の意思決定と実践に必要な知識の提供を行っている。また、避妊・性感染症予防支援にはクライアントの状況を妊娠・性感染症罹患のリスクという観点から丁寧に情報収集しアセスメントしクライアントにそのリスクを理解してもらうこ

とが前提となる。近代的避妊法や性感染症予防法は最近格段に進歩しているが、臨床現場で働く助産師の知識が十分とはいえない状況にあり、我々が育成をめざす避妊・性感染症予防カウンセラーの活動の余地があると考える。

2. 研究の目的

避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムによって育成した助産師による、産褥期の対象者へのカウンセリングの介入効果について評価すること。

3. 研究の方法

平成22年度:育成プログラムの内容精選、サポートするウェブサイトサポートシステムの整備

平成23年度・24年度:褥婦に対する避妊・性感染症予防カウンセラーによる介入評価実施

4. 研究成果

平成22年度は、平成19年度から行ってきた育成プログラムの学習効果に関する研究成果を論文化する作業を行い、2編の原著論文として公表した。その作成と並行して、サポートするウェブサイトサポートシステムの整備として、HPの改編を企画し、内容検討を行い、現在HP全体の更新の最終段階にある。また、介入研究の評価指標の精選を行い、これも作業を開始した。

これらの成果に基づき、平成23年度には介入研究の詳細な計画を立案し、倫理審査受審に向けて作業を進行させる予定であった。しかし研究開始当初から現在までに、出産数のさらなる減少や授乳期間の延長等から、褥婦に対する避妊・性感染症予防介入の困難さが増したと考えられ、その結果介入研究に参加する助産師を募集するのが難しい状況となり、平成23年度内には褥婦に対する避妊・性感染症予防カウンセラーによる介入研究の実施に至らなかった。一方で、避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラム受講者については、その後の活動について実践として報告されていない状況にあった。そこで、研究期間を平成24年度まで延長したうえで、避妊・性感染症予防カウンセリングについての教育を受け、現在臨床で実践している助産師の、褥婦を中心とした、避妊・性感染症予防カウンセリングに関する現状と活動の困難を明らかにすることを目的に研究を実施した。平成24年度に自治医科大学疫学研究倫理審査を受審し、承認を得て(疫12-58)、研究を実施した。対象者は、プログラムに参加し、その後病院にて産後の女性へのケアを行ってきた助産師で、研究の主旨を説明する文書を送付し、研究協力の同意を得られた9

名である。インタビューは2か所に分かれてグループインタビューを行い、ICレコーダーに録音し、逐語録とした。データの分析は、平成24年度の本科研において継続して行うこととなった。

平成24年度の本科研では、これまで本科研において継続して実施してきた避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムを受講した助産師のその後の実践を評価するために、受講した助産師のカウンセリングの実際と日本における産褥期女性への避妊・性感染症予防支援の課題を明らかにすることを目的とした調査結果の分析を行った。調査は本科研の平成23年度分の繰り越し分として実施したもので、対象者は、プログラムに参加し、その後病院にて産後の女性へのケアを行ってきた助産師で、研究の主旨を説明する文書を送付し、研究協力の同意を得られた9名である。インタビューは2か所に分かれてグループインタビューを行い、ICレコーダーに録音し、逐語録とし、分析を行った。結果として、日本における産後の入院期間は5日～7日と短く、その間は授乳に関するケアと育児に関する相談で終始してしまい、避妊に関しては集団で10分程度の話をするのみ、性感染症予防については話をする事もない現状が明らかになった。産後は時間がなく母親も自分の事には目が向けられないため、産前に対応する、結婚する前の若い女性へのアプローチを考えるべきであるとの意見があった。ここで得られた結果から、避妊・性感染症予防の必要な対象者およびケア提供者に対する避妊・性感染症予防に関する情報の提供については、これらの対象者により近い場で活動している薬局の薬剤師との連携で、薬局での対象者との接触、パンフレットによる情報提供、情報提供しているインターネットサイトに案内するという循環するシステムの可能性が明らかとなり、今後その展開につなげていくこととなった。これらの成果は、2014年にプラハで開催予定のICMでの発表をめざし、現在演題登録中である。

引用文献

- 1)成田伸他：避妊・性感染症予防に関するカウンセリング概念の構築と避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの開発。自治医科大学看護学ジャーナル，5，p.101-112，2009.
- 2)S. NARITA, et al.: Evaluation of a Training Program for Counselors in Contraception & Prevention of STIs and a Web-site Support Sytem. Connecting Health and Humans-Proceedings of NI2009, p. 631-635, 2009.
- 3)岡永真由美：経産婦の産まない性に関する記述研究。聖路加看護学会誌，5(1)：10-16，

2001.

4)Scunmann C., et al.:Specialist contraceptive counseling and provision after termination of pregnancy improves uptake of long-acting methods but does not prevent repeat abortion:a randomized trail.Human Reproduction, 21(9):2296-303, 2006.

5)Ferreira AL, et al.:Effectiveness of contraceptive counseling of women following an abortion : a systematic review and meta-analysis. Eur J Contracept Reprod Health Care, 14(1):1-9, 2009

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

・野々山未希子，成田伸，工藤里香，鈴木幸子，岡本美香子，水流聡子，遠藤俊子：避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの評価（その1）－プログラム受講者と自己学習者における知識の獲得状況の比較－. 日本母性看護学会，11（1）：27-33，2011.

・成田伸，野々山未希子，工藤里香，鈴木幸子，岡本美香子，水流聡子，遠藤俊子：避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの評価（その2）－ロールプレイを用いたカウンセリング技能獲得の評価－. 日本母性看護学会，11（1）：35-42，2011.

[学会発表] (計4件)

・Shin Narita，Rika Kudo，Mikiko Nonoyama，Sachiko Suzuki，Toshiko Endo：Evaluation of a Training Program for Counselors in Contraception and Prevention of STIs in Japan from a Viewpoint of Change of Counselor's Attitudes toward Low Dose Pill. International Confederation of Midwife's (ICM) 29th Triennial Congress (Durban) (2012.6.21.)

・成田伸，野々山未希子，工藤里香，鈴木幸子，遠藤俊子，水流聡子：避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの評価（その1）－ロールプレイを用いたカウンセリングの受講前後の評価－. 第12回日本母性看護学会（津市）（抄録集，p.65）2010.6.19.

・野々山未希子，成田伸，工藤里香，鈴木幸子，遠藤俊子，水流聡子：避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの評価（その2）－受講者（介入群）と自己学習者（比較群）における知識の獲得状況の比較－. 第12回日本母性看護学会（津市）（抄録集，p.66）2010.6.19.

・工藤里香，成田伸，野々山未希子，鈴木幸子，遠藤俊子，水流聡子：避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの評価（その

3) 一受講者（介入群）と自己学習者（比較群）における態度の変容状況の比較－. 第12回日本母性看護学会（津市）（抄録集, p. 67）2010. 6. 19.

〔図書〕（計1件）

・成田伸：家族計画, pp.131-137,338,339；加藤尚美編：助産業務指針, 第1版, 日本助産師会出版, 2011.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

・ホームページ：
<http://contraception-std-counseling.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者 成田 伸
（自治医科大学・看護学部・教授）
研究者番号：20237605

(2) 研究分担者
《2010年度》
研究分担者 齋藤良子
（自治医科大学・看護学部・准教授）
研究者番号：20362767
研究分担者 小川朋子
（自治医科大学・看護学部・講師）
研究者番号：6041072
研究分担者 角川志穂
（自治医科大学・看護学部・講師）
研究者番号：70325918
研究分担者 段ノ上秀雄
（自治医科大学・看護学部・助教）
研究者番号：40555595
《2011年度》
研究分担者 野々山未希子
（自治医科大学・看護学部・教授）

研究者番号：90275496
研究分担者 小川朋子
（自治医科大学・看護学部・講師）
研究者番号：6041072
研究分担者 段ノ上秀雄
（自治医科大学・看護学部・助教）
研究者番号：40555595
《2012年度》
研究分担者 野々山未希子
（自治医科大学・看護学部・教授）
研究者番号：90275496
研究分担者 段ノ上秀雄
（自治医科大学・看護学部・助教）
研究者番号：40555595

(3) 連携研究者

《2010年度》
連携研究者 鈴木幸子
（埼玉県立大学・保健医療福祉大学・教授）
研究者番号：30162944
連携研究者 野々山未希子
（東邦大学・看護学部・准教授）
研究者番号：30162944
連携研究者 工藤里香
（兵庫医療大学・看護学部・講師）
研究者番号：80364003
連携研究者 水流聡子
（東京大学大学院・工学系研究科・特任教授）
研究者番号：80177328
《2011年度》
連携研究者 鈴木幸子
（埼玉県立大学・保健医療福祉大学・教授）
研究者番号：30162944
連携研究者 工藤里香
（兵庫医療大学・看護学部・講師）
研究者番号：80364003
連携研究者 水流聡子
（東京大学大学院・工学系研究科・特任教授）
研究者番号：80177328
《2010年度》
連携研究者 鈴木幸子
（埼玉県立大学・保健医療福祉大学・教授）
研究者番号：30162944
連携研究者 野々山未希子
（東邦大学・看護学部・准教授）
研究者番号：30162944
連携研究者 工藤里香
（兵庫医療大学・看護学部・講師）
研究者番号：80364003
連携研究者 水流聡子
（東京大学大学院・工学系研究科・特任教授）
研究者番号：80177328